

米国でフロントガラス用最新工法設備を導入

日本板硝子株式会社（本社：東京都港区、社長：森 重樹、以下 NSG グループ）は、米国ケンタッキー州バーセールの自動車用ガラス工場に 750 万米ドルを投じて、最新技術による製造プロセス刷新に着手することを決定しましたので、お知らせします。着工は本年春を予定し、フロントガラス（合わせガラス）製造用に最新の高精度プレス（APBL）設備を導入します。

複雑形状で面精度の高いフロントガラス製造のために開発された、当社独自技術による高精度プレス工法は、人気が高まるヘッド・アップ・ディスプレイ（HUD）に対応するフロントガラス製造の中核技術となるものです。

「今回の取り組みは、自動車用ガラス市場の現在と将来の顧客需要に応える NSG グループのグローバルな施策の一例です」と、グローバル自動車事業部門長のトニー・フラッジリーは述べています。「当社はこれからも、HUD などの運転支援システム関連技術の進歩により、急速に拡大する顧客ニーズ（高面精度のニーズ）にお応えしていきます」。

ケンタッキー州政府経済開発融資機構による支援も得た今回の投資計画には、バーセール工場での新設備設置と既存設備改修が含まれます。Pilkington North America, Inc.が操業する同工場は 1987 年の設立で、従業員は約 300 名です。

Pilkington North America は、自動車用・建築用・高機能ガラスおよびグレーディングシステム製品の世界最大メーカーのひとつである NSG グループのメンバーです。

以上



高精度プレス工法で製造した複雑造形のフロントガラス